

結婚しようよ

結 婚 今・昔 物 語



親…うちの子はいつになったら結婚するつもりなんだろう？

いい人はいるのかしら？

若者…今は自分のやりたいことを優先したい！

結婚、結婚って言わないで！

親の気持ち、子の気持ちをお互い認め合って、
親子で「結婚」について話し合ってみませんか。



岩手県





岩手県の若者に聞きました あなたにとっての「結婚適齢期」はいつ？

—若者世代は何歳で結婚したい？どんなときに結婚したいと思っている？



男性の意見

- ・子どもを3人欲しいと思っているので、自分も相手も25歳で。
- ・社会的な経験を積んで自立してから結婚したいので30歳で。
- ・生活や収入が安定し、経済的に自立してから結婚したいので30歳で。
- ・周りの人の結婚していく様子を見て30歳～35歳で。
- ・自分の生活に精一杯で、家族を持ち、生活を支えていくことまで考えられない。

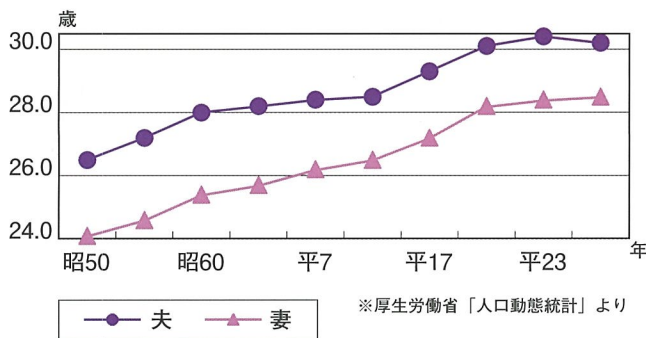


女性の意見

- ・出産適齢期に出産できるよう25歳で。
- ・親が結婚したのと同じくらいの年齢で結婚したいので25歳で。
- ・親が若くして結婚して苦労しているので、親よりも年齢を重ねてから結婚したい。
- ・今はしたいことがたくさんあるので焦らず30歳～35歳で。

岩手県の平均初婚年齢の移り変わり

昭和50年の平均初婚年齢に比べ平成24年には夫とも約4歳上昇しています。



全国の未婚者が結婚していない理由

順位	男性	女性
1位	適当な相手にめぐり合わない	
2位	必要性を感じない	自由や気楽さを失いたくない
3位	結婚資金が足りない	必要性を感じない
4位	自由や気楽さを失いたくない	趣味や娯楽を楽しみたい

対象:25～34歳の未婚者

※国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」より

まとめ

結婚適齢期に対する考え方は、個人の価値観によって様々ですが、

- ・男性は、経済的に自立して女性を引っ張っていきたいという意識を持つ傾向があります。
- ・女性は、自分の出産年齢を意識していながらも、趣味を楽しんだり、自由を失いたくないなどの理由により結婚年齢が遅くなっている傾向がみられます。
- ・男性・女性に関わらず、自分の両親や上司など親世代の結婚年齢の影響を受けていることがわかります。

2

結婚について、いろんな人と話をしよう

— 親世代と若者世代の結婚観ってどう違うの？

- 結婚について考えるとき、同世代だけでなく、結婚の先輩である親や職場の上司など、親世代の方の話もぜひ参考にしたいものです。でも、年齢が離れるとなかなか話が合わないことも多いもの。

では、親世代と若者世代には、結婚についてどのような考え方の違いがあるのか、意見をまとめました。

親世代の結婚への意見

- ・将来、我が子に苦労させたくないの、経済的に安定した人と結婚してほしい。
- ・結婚に関して、(離婚など) 自分のような苦労や失敗を経験してほしくない。
- ・いつまでも親に頼って暮らす息子の世話をしてくれるお嫁さんがほしい。
- ・結婚しても自分の手の届く近い場所に子どもに住んでほしい。
- ・会社の後輩の前では、結婚してよかったこと、うまくいった話をするのは照れ臭い。

若者世代の結婚への意見

- ・結婚相手についての条件ばかり出さないでほしい。
- ・親の理想の結婚の押しつけはしてほしくない。
- ・結婚のタイミングは、自分自身の気持ちを優先させてほしい。
- ・自分の価値観は大切にしたいが、親の言う「安定した人と結婚して欲しい」という気持ちは分らんくもない。

- 世代が違っていても、家族間でも他人でも、それぞれが「別人格」であることを認め、お互いが相手の立場や考え方の背景を理解し、思いやりを持って結婚について語り合っていくことが必要です。

「結婚」のいま・むかし

—それぞれの世代の「結婚」を取り巻く時代背景や結婚環境を知ろう—

● 親世代 (むかし) の結婚環境や結婚観に関する意見

- ・結婚するのが当然で、子どもをたくさん産むためにも早く結婚するべき、という考えが多かった。
- ・「結婚」は「家と家の結びつき」という意識が強く、両親の意向で結婚相手が決められることも多かった。
- ・男性は外で仕事をして、女性は家で子育てと家事をするという、夫婦の分業が一般的だった。

● 若者世代 (いま) の結婚観に関する意見

- ・仕事や年収を重要視し、安定した生活を求めたい。
- ・自分のしたいことを優先し、時間やお金に関しての自由を失いたくない。
- ・周囲の人が結婚する時期に合わせて結婚したいなど、トレンドを意識する。
- ・「今、結婚する理由」、「この人と結婚する理由」など、結婚に何らかの「理由」が必要。
- ・結婚情報が氾濫し、結婚して得るもの、失うもの、損得で考えてしまう。
- ・両親が喧嘩する姿を見てきたので、結婚が本当に良いものなのか疑問。
- ・職場の上司から、結婚に関してネガティブな話しか聞かないので結婚することが不安。



親世代では20代半ばを過ぎて結婚しない、または嫁に行かないということが「恥ずかしいこと」と考えることもありました。「親世代」と「若者世代」が過ごしてきた時代背景や結婚環境は大きく違っており、「結婚観」や「価値観」も異なっています。

また、両親の人間関係も、若者それぞれの結婚観に大きく影響しています。

3

「未婚化」・「晩婚化」が進んでいます

——未婚化・晩婚化が進んだ背景にはどんな理由があるの？

40歳～44歳の岩手県の未婚率は、男性・女性とも平成2年に比べて約3倍になっています。

岩手県の未婚率の推移

	25～29歳		30～34歳		35～39歳		40～44歳	
	平成2年	平成22年	平成2年	平成22年	平成2年	平成22年	平成2年	平成22年
男性	61.7	64.6	34.9	45.1	20.0	35.4	10.9	29.9
女性	37.9	52.3	12.7	31.1	6.6	21.0	5.1	15.8

(単位：%)

※総務省「国勢調査」より

約3倍

結婚することが当然で半ば「義務」と考えられたり、結婚していなければ生活しにくかった時代から、現在は、結婚への考え方が「自由選択」の方向に変化しています。

○お見合い結婚の減少

・以前はお見合いによる結婚が全体の7割程度を占めていましたが、現在は自分で出会いを探す恋愛結婚が9割近くを占めるようになりました。

○女性の社会進出

・男女雇用機会均等法の成立などを機に女性の社会的地位や賃金が向上し、必ずしも結婚が最優先ではなくなりました。

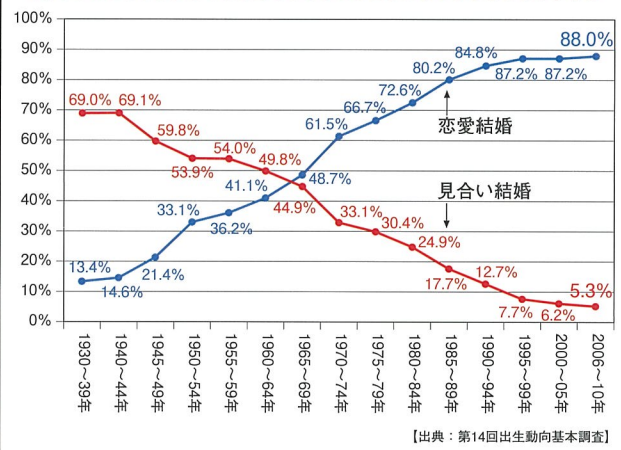
○結婚や家族への考え方の変化

・以前は男性は仕事、女性は家庭という役割を分担し、老後は子どもや家族に支えられることが一般的でしたが、若い男女の「自由を失いたくない」という気持ちや雇用の多様化などにより考え方も変わりつつあります。

○結婚しなくても不便が少ない時代に

・以前はいつでも利用できる商店や食堂などが少なく、一人暮らしでは生活に不便が多くありましたが、今は物や情報がいつでも簡単に手に入るようになり、一人でも大きな不便なく生活できる時代になりました。

結婚年次別にみた恋愛結婚・見合い結婚の構成比



岩手県の結婚支援対策

このような未婚化・晩婚化を原因とする少子化への対策として、県では、結婚しやすい環境を整えるための支援や、結婚を応援する機運の醸成を行って、結婚したい県民への支援を強化していきます。

●i(アイ)出会い応援事業

民間団体が実施する婚活イベントなどに、財団法人いきいき岩手支援財団から経費の助成を行ったり、イベント主催者への研修を行うなどにより、県内各地での結婚支援への取組を応援しています。

●若者の結婚を考えるフォーラム

行政、地域、企業の結婚支援についての講演や、県内各地での結婚支援への取組などを広く発信するフォーラムを平成26年度から開始しました。

●結婚支援センターの設置・運営(予定)

平成27年秋のオープンを目指し、ホームページやメルマガを通じた出会いイベント情報の発信や、会員登録によるお見合いによるマッチング支援、社員の結婚を応援する企業の交流などを結婚支援センターが応援します。

